新市民体育館を建設中

現在、体育館機能・保健センター機能・子育て支援機能を備え、災害時には大規模避難所として使用できる複合型の体育館「健幸のまちづくり拠点施設（新市民体育館）」を総合運動公園内に建設しています。

これは、築50年以上が経過し、老朽化が進む市民体育館の移転整備に合わせて、近い将来に老朽化対策で整備が必要となる市内5施設（市民体育館・中央地区体育館・保健センター・みどり会館・勤労青少年ホーム）を集約して「複合化」するものです。

この「健幸のまちづくり拠点施設（新市民体育館）」は、令和6年9月に基礎工事が始まり、今後、「骨組み工事」、「外装・内装工事」、「施設調整・仕上げ工事」が行われた後、令和8年3月に完成する予定です。

施設の管理運営方針

施設は、誰もが日常的に利用しやすい施設になるよう、次のように管理します。

①利用時間・休館日

各機能を備える複合型の施設となることから、市民の利便性やサービス向上のため、開館日時の統一を図ります。

②施設の貸出

アリーナ、多目的室、クッキングスタジオ、子育て支援センターなどは団体や個人に貸し出します。利用申し込みはＩＣＴの活用を検討し、公平で便利に手続きが行えるようにします。

③使用料の方向性

適正かつ公平で利用しやすい料金設定を行い、柔軟な料金体系となるようにします。また、使用料の支払い方法についても利便性向上を図ります。

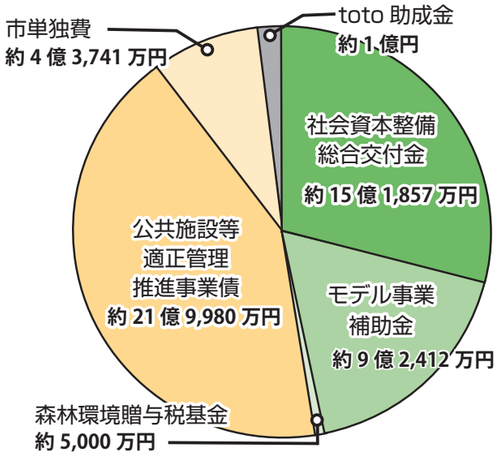
今後、これらの方針に基づき、具体的な「管理運営基本計画」を策定します。

施設整備のための費用と財源

設計・施工、備品購入などを合わせ、整備費用は約 52 億円になる予定です。

項目	金額	備考
基本設計委託費等	6,306 万円	基本設計・費用対効果調査費・アドバイザリー委託費
地質調査委託費	2,122 万円	地質ボーリング調査
設計施工一括委託費等	48 億 9,317 万円	実施設計費・建設費・外構工事費
備品購入費等	2 億 5,245 万円	移動式バスケットゴール等の各種競技用備品、家具類等
合計額	52 億 2,990 万円	※今後の社会情勢等により変更する場合があります

拠点施設を整備するための財源



市では、複合型体育館を整備するために、国土交通省が令和４年度から始めた「モデル事業」の採択に向け取り組み、令和５年度開始の事業から採択を受けました。

このことにより、整備にかかる費用の約２分の１の補助金を受けられます。

また、備品購入費の一部に toto 助成金（スポーツくじ）の活用を計画しています。

※公共施設等適正管理推進事業債とは

充当率 90 ㌫で交付税措置率が元利償還金の 50 ㌫の有利な起債のこと。公共施設を集約することで活用できるもの。

～現在の工事の様子～

建設現場では既に基礎工事が行われ、122 本の杭打ち作業が完了しました。杭は、地中に最大で 29 ㍍の深さまで打ち込まれており、体育館を支える重要な基盤となります。

現在は、次の工程である基礎コンクリートの打設に向けて、基礎の鉄筋を組み上げる配筋（はいきん）作業を進めています。コンクリートを補強するための鉄筋を職人の手で適切な位置や量で配置することで、基礎の強度を高める重要な工程です。

～国スポ・障スポ会場に～

紡ぐ感動 神話となれ
日本のひなた宮崎 国スポ・障スポ
第81回国民スポーツ大会 2027 第26回全国障害者スポーツ大会

健幸のまちづくり拠点施設は、令和９年開催の「日本のひなた宮崎国スポ・障スポ」の会場にも使用されます。（行われる競技は下記の通り）

- 体操（トランポリン）…令和９年９月９日
- バレーボール（少年女子）…令和９年９月 27 ～ 30 日
- バレーボール（精神障がいの部）…日程未定
- ソフトバレーボール…日程未定